

校は第一に公的支援面での公私間格差を解消をすべきだと考えます。高校への進学率は約96%にもなり、全員に近い中学生が高校に進むわけで、実質的には義務教育の延長です。

しかも、そのうちの少なくない高校生が私立学校に通っています。東京の場合は公立中学校の卒業生の4割強が私立高校に進み、私立中学生の進学組を合わせると結果的に都内の全高校生の半数以上は私立に通うのです。私立高校は後期中等教育の一翼を担っていますし、公教育を担っていると言ってもいいでしょう。

それなのに、「私立高校に行くのは新幹線でグリーン車に座るのと同じだ」というふうに思われ、そのために私立高校への公的な支援が公立高校に比べてあまりに少なくされ、授業料にどうしても大きな差ができてしまいます。

「お金がないなら公立学校に行けばいい」と発言していた知事がいました。その考え方はおかしいと？

吉田 そうです。新幹線ならグリーン車と同じような役割を果たす普通席がたくさんあるかもしれませぬ。普通席でも目的地と同じ時刻

に着きますよ。しかし、私立高校と公立高校はそれぞれ役割が異なります。

生徒や保護者は、公立にはない教育を受けたいから学費を工面して私立に来るのです。現実には私立高校は公立高校がカバーしきれない生徒もたくさん育てていますよ。学力がズバ抜けて高い生徒や、公立では対応できないほど学力が不足している生徒を積極的に迎え入れて学力を伸ばし、人格教育をしっかり行って卒業させてきたのも、私立です。

公立高校は私立高校の役割を担えないし、私立高校も公立高校とは成り立ちが異なります。私立と公立はそれぞれの役割を果たしつつ、互いにバランスを考えて後期中等教育を支えてきたことを忘れてはほいすね。

公立高校が受けている支援を私立高校にも同じようにしてほしいというのですか？

吉田 そうではありません。私が言いたいのは、進学率96%の高校の一翼を担って支えている私立に対して、国は果たすべき最低限の施策をしていないということです。少なくとも、公立高校の安すぎ



る授業料はもう少し受益者負担を多くする政策を入れるべきです。負担が大きいご家庭の場合は、所得に応じて税金の控除などを適用すればいい。今起きている深刻な教育問題の一部は、明らかに「教育＝無料」という保護者の思い違いから来ています。

とても不思議に思うのは、進学率が5割程度の大学では、私立大学の授業料が平均して国公立大の約2倍程度で済んでいるんです。高校の場合は進学率が約96%もあるのに、授業料だけをみても、私立高校と公立高校とでは3倍以上の

開きがある。

この差は決して私立高校が贅沢をしているからではありません。ほとんどの私立高校はギリギリの経営努力をしています。それなのに私立高校に対する公的な補助は減らされる方向で、ますます高校の公私間格差がつかうとしていきます。おかしな話です。

例えば、医療分野では、公立病院でも私立病院でも同じ治療を同じ料金で受けられますよね。しかしながら、教育分野では、一律にということではなく、受ける利益に応じて負担する額が異なってもお

視点

私立が築いた学校選択の自由が失われようとしている

●インタビュー
吉田 晋 日本私立中学高等学校連合会会長/
富士見丘中学高等学校理事長・校長



よしだ・すずむ●1952年生まれ。慶應義塾大学法学部法律学科を卒業後に企業勤務を経て1978年に富士見丘学園へ。副校長を経て93年に富士見丘中学高等学校校長。95年に富士見丘学園理事長。08年4月より日本私立中学高等学校連合会の会長に就任。その他にも多くの公職を務める。

景気が大きく後退している。この不況は高校生を持つ家庭の家計にも大きな打撃を与え、特に私立高校に通う生徒の家庭に暗い影を落とすつつある。私立高校への補助金を減らす自治体も出てきた。苦境に追い込まれている私立高校。このまま景気が回復しなければ、いったいどうなるのか。中等教育の一翼を担ってきた私立学校に問われる存在意義について、日本私立中学高等学校連合会の吉田晋会長（富士見丘中学高等学校理事長・校長）に、私立学校の現状と今の考えを率直に語ってもらった。

微増にとどまった私立での授業料滞納

この未曾有の不況で、私立の教育現場にも影響が出始めていると思います。私立高校で授業料を滞納する家庭はどれくらい増えているのでしょうか？

吉田 実は今年初め、文科省から私立中高連に調査の依頼がありました。家計急変で苦境に陥った生徒への支援政策を考える基礎データを至急用意してほしいとのこと、急遽、例年3月末現在で実施している調査を12月に実施しまし

た。平成20年3月と12月のデータを比較したところ、授業料の滞納は増えていました。0・8%から2・7%になっていました。

特に、北海道、東北、九州で比率が高かったですね。この背景には、地域間の経済格差と各都道府県による私立学校や生徒への助成の違いに要因があったと思われる。国はこの調査などを踏まえて補正予算を組み、さまざまな学校や生徒への支援策が決まりました。

ただ、改めて3月末時点での平成21年度の調査を実施したところ、最終的には授業料の滞納は0・9%の微増にとどまっていたんです。いったい、どういうことか？ おそらく授業料の支払いの遅れていた保護者が年度内に授業料を納めようと、必死に努力してくださったものだと思います。

私はいつも思うんです。私立学校に子どもを通わせる保護者は、なんて教育的な意識が高いんだらうと。決して裕福な家庭ばかりではなく、ましてやこの不況で、家計が苦しい家庭は確実に増えています。それでも、自分の子どもの可能性を伸ばす教育を受けさせてやりたいと、保護者は努力を重ね

て私立学校を選び、通わせ続けてくださっているのです。

高校や大学への進学格差を広げないために、奨学金制度の充実が求められ始めていますが、どのように思われますか？

吉田 奨学金制度の充実はとても重要ですが、この緊急時には、公的な支援をさらに厚くすることのほうがもっと重要だと考えます。学費の支払いに困っているご家庭が利用しやすい策を国や自治体はもっと打ち出してほしいですね。

授業料滞納の問題が深刻化する前に、私立学校の努力、そして保護者のご努力、公的な努力の3つをバランスよく高めていくことが重要になるんです。

奨学金制度について言えば、日本は今大きな分かれ目に来ていると思います。必要な生徒や学生に奨学金が十分に回っていない一方で、日本学生支援機構が貸与する奨学金が卒業後に返済されないことも大きな問題になっています。

結局は、学費の負担を誰がどうするのかという問題。いろいろな考え方がありますが、まず国民的な議論が必要でしょう。

ただ、持論をいえば、日本の高

かしくはない。公立高校だから授業料が安いのは当たり前という考えは、論拠がないんです。

学力不足の学生なら 大学は入れなければいい

——大学進学を目指す高校3年生に不況の影響は出ていますか？

吉田 その点は不明瞭で、なんとも言えないのが現状です。出ているのかもしれませんが、ご家庭の努力で表面に出ていないところもあると思います。

ただ、印象としては、推薦で進学先を決める傾向は強まっているように感じます。今、大学はなるべく早く高校生を囲い込もうと、AO入試や推薦制度を拡充しています。そこへ、この不況です。受験生はお金がかかるのが気にかかるので、もっと別の大学を狙える学力がありながらも、秋に合格を出してくれた大学に決めたくなる心理が働きやすくなるんですね。

もし2月の一般入試を狙う場合、4〜5校は受験するので、それだけで十数万円の費用がかかる。さらに、秋から冬までの予備校代もかかる。どこかに合格すれば、本命の合格発表を待つまでの手続き

金も必要になるかもしれない。そんな費用のことを考えたら、秋の推薦で合格した大学に進もうと生徒も保護者も思いたくなるんです。

——大学側が受験生の学力の担保を求めて、一律の試験を新たに高校に課す動きがあるようです。率直に、どう思われますか？

吉田 大反対です。理由は簡単で、大学は学生の学力が足りないと思うなら、入学の許可を出さなければいい。アドミッションポリシーを明確にして、それに基づいて入試をきちんと行えばいい。

大学は高校と違って、ほぼ全員が行くような学校ではありません。基本的に行きたい者が努力して保護者の力を借りて行くところ。大学は受験生の学力をきちんとチェックして選ぶべきですよ。

AO入試の枠を多くしたことが大学生の学力低下の一因になっているようですが、高校側は大学にAO入試をやってほしいとお願ひしたことなど1度もありません。むしろ、学力の高い学生が欲しいなら、AO入試をやめるべきです。2〜3月の一般入試だけにすれば、高校生はたっぷり勉強し



て学力を高められます。

それでも学力が足りないと言うのなら、入学を許可しなければいい。どうしても入りたい高校生は、もっと早くから努力して大学が提示したレベルに達しようとするでしょう。もうこれ以上、余計な試験を高校生に課さないでほしい。一律に学力を調べたいならセンター試験だけで十分です。

——大学側の構想に論理的な矛盾があるということですね。

吉田 そう、本末転倒ですよ。センター試験より早い大学受験用の統一試験を課せば、青田買いがま

ます熾烈になるだけ。もっと高校3年生の教育が崩れ、学力はさらに低下するでしょう。

日本の教育界は、なぜかときどき欧米の教育制度や入試制度を無理に導入しようとして失敗します。AO入試や全国共通学力テストに変に真似ても、おかしなことになるだけです。日本の教育には、それぞれの現場で培ってきたやり方や歴史があるんです。日本の教育が他国に比べて遅れているのだとすれば、原因はそんな無理な矛盾があるからですよ。

私立学校の良さの1つは、こん

な教育制度の矛盾をなんとか学校の中で解消して整合性のある教育を提供していることなんです。中高一貫教育にしろ、土曜日授業にしろ、先取り学習にしろ、基本ルールを守りながら自由に実のある教育システムを新たに作り、少しでも多くの生徒が伸びる環境を用意してきたのが私立学校の特徴です。それが失われそうになっていることに、私たちは強い危機感を覚えるんですね。

学校選択の自由が 失われて本當にいいのか

——公立の中高一貫校が増えていきます。どう思われますか？

吉田 公立が中高一貫校を始めるのはご自由です。ただし、その学校を作るのに必要な新ルールを私立学校にも当てはめようとするのは、やめてほしいですね。

私立学校はそれぞれ独自に考えて教育的な付加価値を生み出してきました。中高一貫教育は、ルールを守りながら独自の一貫教育を作って進化させてきたんです。その成功を見て、公立学校もルールを変えて同じようにやるようになりました。でも、そのとき必要で

新しく作ったルールを統一ルールとして私立学校に適用させようと「先取り授業はするな」「やりたいなら中等教育学校にしろ」と押し付けてくるのは納得できません。私たちは今まできちんとやってきたし、多くの生徒や保護者からも支持されてきました。もし新ルールが必要なら公立学校にだけ適用してほしい。

最近、こんな私立学校の自由さを奪うような動きが本當に多いんですね。学習指導要領が示す教育内容を本質的に理解しながら工夫して実施しているのに、公立が3年生でやる単元を私立で2年生ですると「未履修だ」と言う。私立の良さが消えてしまいますよ。

公立学校は私立学校が生み出した教育的付加価値を次々に取り入れるので、私立学校はそれに負けじともっと新しい教育をしたいのです。だけれど、「それはルール違反だ」と言って封じ込める。このままだと、日本の教育は停滞して質が低下しますね。

私立学校の活動が押さえ込まれて教育的な特色をつけられないとなると、例えば知名度の高い大学の系列校になろうとする私立学校

の動きが加速するかもしれません。今、大学は附属校を多くして、成績上位層の生徒だけを入学させようとしているように見えます。でも、それをやり過ぎてしまうと、上の大学に生徒を送り込むことに重点が置かれて、私立高校が築いてきた多様な独自性が失われてしまってしまうでしょう。

そうなれば、どこも同じようになって学校選択の自由が実質的になくなり、一番損をするのは生徒や保護者になります。

——私立学校の重要性を訴えるのは、市民の学校選択の自由を守りたいためでもありますか？

吉田 私立学校は、学校選択の自由の象徴的な存在なんです。かつて、私立学校の多くは女子校でした。それは、男子だけが教育を受ければいいのかという考えが公にあったからです。それに対抗して生まれたのが女子校であり、それは学校選択の自由が生まれた瞬間でもあるんですね。

今でもその精神は受け継がれ、公教育ではできない教育を市民に提供するのが私学の使命であると私たちは実践してきました。その私立学校の活動を押さえつけてい

くと、学校選択の自由がだんだんとなくなっていくでしょう。

よく、教育委員会が「市民のニーズに定める」と言っていて中高一貫校や進学指導重点校を設置しますが、本當に市民のニーズに当てているのでしょうか。だって、男子校や女子校を新設することはあり得ませんよね。少なからず、市民の中には男子校や女子校に入りたいと考える市民はいます。その要望に現実として応えているのは、公立ではなく私立です。公立の学校だけでなく教育ができると思うのは、間違いなのです。

不況下で、保護者や中学生の中には、私立高校に行きたいのに家庭の経済的な理由で進学を諦めるケースも増えてくるかもしれません。この状態を国や自治体が解消しようとしなければ、国民や市民のニーズを無視し、学校選択の自由をなくすことを助長しているのも同じです。国は、本當にそんな状況になってほしいと思っていないのでしょうか。未曾有の危機が訪れている今、多様な学校が存在することと学校選択の自由の重要性について改めて考え直すときが来ていると思います。